



# とちぎ森林創生ビジョンの実施結果について (令和4年度実績)

計画期間：令和3(2021)年度～令和7(2025)年度  
令和5(2023)年7月  
栃木県環境森林部

# 目次

(1) 総合評価	3
(2) 各指標の状況	4
重点施策1 林業・木材産業の産業力強化 ～“稼げる林業の実現”～	4
重点施策2 森林の公益的機能の高度発揮 ～”災害に強い森づくり”の推進～	6
重点施策3 森林・林業・木材産業を支える地域・人づくり ～“次代を担う人材”の育成～	8
共通施策 未来技術を活用した産業への進化 ～“スマート林業”の推進～	9
(3) 課題と今後の取組の方向性	10

## (1) 総合評価

17の指標のうち、年度目標を達成（◎）したものが7指標、年度目標の80%以上の進捗（○）が6指標、年度目標の50%以上80%未満の進捗（△）が3指標、年度目標の50%未満の進捗（▲）が1指標となった。

進捗が○以上のものが76%を占めることから、総合評価はやや遅れていると判断した。

	施策名	指標数				
			◎	○	△	▲
重点施策1	林業・木材産業の産業力強化 ～“稼げる林業”の実現～	7	2	3	2	0
重点施策2	森林の公益的機能の高度発揮 ～“災害に強い森づくり”の推進～	6	3	1	1	1
重点施策3	森林・林業・木材産業を支える地域・人づくり ～“次代を担う人材”の育成～	2	1	1	0	0
共通施策	未来技術を活用した産業への進化 ～“スマート林業”の推進～	2	1	1	0	0
計		17	7	6	3	1

## (2) 各指標の状況

### 重点施策1 林業・木材産業の産業力強化 ～“稼げる林業”の実現～



指標	現状値 R1 (2019)	実績値/年度目標値/年度進捗率					目標値 R7 (2025)	グラフ ※単年度集計の指標は棒グラフ、累計等は折れ線グラフで表記
		R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)		
1 林業産出額 (億円/年)  要因分析等	107.1 (H30(2018))	101.3 115 88% ○	125.0 120 104% ◎				135 (R6(2024))	
	<p>ウッドショック等の影響で製材等の輸入量が需要に対して低水準となり、国産材への代替需要が高まったことで、製材用素材等の価格が一時的に上昇し、木材生産額が増加した。しかし、R5現在、すでに価格はウッドショック前と同等まで下落し、主な需要先である住宅の着工数も減少傾向にあることから、次年度以降、実績が落ち込むことが想定される。</p>							
2 素材生産量 (万m³/年)  要因分析等	45.3	55.5 54 103% ◎	49.9 58 86% ○				70	
	<p>R3年度は、ウッドショックの影響により事業者が素材生産に注力したため、主伐面積・素材生産量が緊急的に増加したが、その反動でR4年度は、主伐後の造林・保育への対策が必要となり、主伐面積・素材生産量は目標値を下回った。</p>							
3 主伐面積 (ha/年)  要因分析等	302	513 500 103% ◎	449 575 78% △				700	
	<p>R3年度は、ウッドショックの影響により事業者が素材生産に注力したため、主伐面積・素材生産量が緊急的に増加したが、その反動でR4年度は、主伐後の造林・保育への対策が必要となり、主伐面積・素材生産量は目標値を下回った。</p>							

## (2) 各指標の状況

指標	現状値 R1(2019)	実績値/年度目標値/年度進捗率					目標値 R7(2025)	グラフ ※単年度集計の指標は棒グラフ、累計等は折れ線グラフで表記
		R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)		
4 協定取引量 (万m <sup>3</sup> /年)	3.6	5.6 4.7 119% ◎	5.4 5.3 102% ◎				7	
	要因分析等	製材品の需要の減少により、川上・川中間の素材丸太の協定取引量はR3より減少したが、目標値は達成した。						
5 製材品出荷量 (国産材) (万m <sup>3</sup> /年)	28.7	28.8 31 93% ○	25.3 32 79% △				35	
	要因分析等	新設住宅着工戸数の減少（住宅需要の減少）等により、製材品の需要が減少したため、製材品出荷量（国産材）は目標値を下回った。						
6 人工乾燥材出荷量 (国産材) (万m <sup>3</sup> /年)	20.5	23.7 22 108% ◎	18.5 23 80% ○				25	
	要因分析等	R3年度はウッドショック等の影響により、入荷量が少ない外材の代替需要として一時的に伸びたが、R4年度は外材入荷量が安定化するとともに住宅需要の減少等を受け、目標値を下回った。						
7 きのこ生産量 (t/年)	3,905	3,909 4,003 98% ○	3,969 4,053 98% ○				4,200	
	要因分析等	ICT導入による効率的な生産方法確立のための栽培技術指導等の取組を行ったことから、目標値は下回ったものの、概ね計画どおりとなった。						

# (2) 各指標の状況

## 重点施策2 森林の公益的機能の高度発揮 ～“災害に強い森づくり”の推進～



指標	現状値 R1 (2019)	実績値/年度目標値/年度進捗率					目標値 R7 (2025)	グラフ ※単年度集計の指標は棒グラフ、累計等は折れ線グラフで表記
		R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)		
8 造林面積 (ha/年)	408	387 500 77% △	431 575 75% △		650 680	700		
	要因分析等	これまでの主伐・再造林地において、その後5年以上続く下刈・獣害対策といった作業が累積・増加していることから、造林作業量は伸び悩み、目標値を下回った。						
9 間伐面積 (ha/年)	3,524	3,357 3,500 96% ○	3,177 3,500 91% ○		3,500 3,500	3,500		
	要因分析等	R3年度は、ウッドショックの影響により事業者が素材生産に注力し、主伐面積が緊急的に増加したことから、間伐面積は伸び悩み、さらに主伐増加の反動でR4年度は、主伐後の造林・保育への対策が必要となり、目標値を下回った。						
10 山地災害危険地区の着手箇所数 (累計)	-	29 25 116% ◎	58 50 116% ◎		75 100	125		
	要因分析等	国の防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策に基づき、予防的な治山事業を着実に執行したことにより、目標値を上回った。						

## (2) 各指標の状況

指標		現状値 R1 (2019)	実績値/年度目標値/年度進捗率					目標値 R7 (2025)	グラフ ※単年度集計の指標は棒グラフ、累計等は折れ線グラフで表記
			R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)		
11	保安林面積 (民有林) (ha)	80,510	81,718 81,380 100% ◎	82,180 81,760 101% ◎				83,500	
	要因分析等	大規模面積の保安林指定が進んだため、目標値を上回った。							
12	森林組合による 地籍調査面積 (累計) (ha)	278	2,304 1,420 162% ◎	2,983 1,990 150% ◎		2,560	3,130	3,700	
	要因分析等	航空レーザ計測等リモートセンシングデータを活用した新手法を全国に先駆けて地籍調査に導入し、山間部の境界確認等の効率化、迅速化が図られたことで目標値を大幅に上回った。							
13	野生獣による 林業被害額 (億円/年)	1.35	1.70 1.27 -437% ▲	1.81 1.23 -1350% ▲		1.18	1.14	1.10	
	要因分析等	被害額の増加については、被害面積は昨年度と比べ横ばいであったが、シカ、クマによる価値の高い壮齢林の剥皮被害が占める割合が増えていることが主な要因となり、目標未達となった。							

## (2) 各指標の状況

### 重点施策3 森林・林業・木材産業を支える地域・人づくり ～“次代を担う人材”の育成～



指標	現状値 R1 (2019)	実績値/年度目標値/年度進捗率					目標値 R7 (2025)	グラフ ※単年度集計の指標は棒グラフ、累計等は折れ線グラフで表記
		R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)		
14 新規就業者数 (人/5年)	245	250 250 100% ◎	267 253 106% ◎				260	<p>新規就業者数(人/5年)</p>
	要因分析等	<p>高校生等を対象とした集団PR説明会、刈払機を使用したトライアル体験等の実施により、年度目標値を達成した。特に、高校新卒者はこれまで訪問型の就業説明会を実施してきた高校からの就業があり、事業の効果が現れてきている。</p>						
15 里山林整備面積 (第2期県民税事業の 新規累計) (ha)	403	584 664 88% ○	683 794 86% ○				1,185	<p>里山林整備面積(累積)(ha)</p>
	要因分析等	<p>担い手の高齢化や後継者不足に加え、コロナ禍の影響により森づくり活動団体が活動を自粛するなどの影響を受けて実績が伸び悩み、目安値を下回った。</p>						



## (2) 各指標の状況

### 共通施策 未来技術を活用した産業への進化 ～“スマート林業”の推進～



指標	現状値 R1 (2019)	実績値/年度目標値/年度進捗率					目標値 R7 (2025)	グラフ ※単年度集計の指標は棒グラフ、累計等は折れ線グラフで表記
		R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)		
16 労働生産性 (主伐) (m <sup>3</sup> /人日)	10 (H30(2018))	13 87% ○	17 85% ○	20	25	30	30	
	要因分析等	木材生産には、作業道作設から伐採、造材、搬出、再造林といった工程があり、労働生産性を向上させるためには工程全体のスマート化が必要であるが、現時点では工程ごとの技術検証（ICTハーベスタ（伐採）、ドローン（再造林）等）を進めている段階であり、目安値を下回った。						
17 労働災害発生率 (%)	21	0 420% ◎	0 320% ◎	11	5	0	0	
	要因分析等	スマート林業技術の導入により、従来の人力作業から機械による作業に転換されたことで作業安全性が向上し、現場での労働災害は発生せず、目標を達成している。						

※16労働生産性・17労働災害発生率については、モデル地区（スマート林業検証現場）における実績値  
 ※17労働災害発生率は単年度集計の指標だが、実績値が0の場合、棒グラフでは視認できないため、折れ線グラフで表記

### (3) 課題と今後の取組の方向性

#### 重点施策1 林業・木材産業の産業力強化 ～“稼げる林業”の実現～

「林業産出額」は目標値を達成したが、「素材生産量」「製材品出荷量」「人工乾燥材出荷量」はいずれも約80%程度の進捗であり、今後も、素材生産量等の増大に向けた皆伐・搬出間伐の促進のため、川上・中・下の連携強化、生産体制の強化や用途開発、販路拡大等が求められる。「キノコ生産量」は98%と概ね順調な進捗だが、今後も、生産コスト削減に向けた県内産原木の利用率向上等が求められる。

#### 重点施策2 森林の公益的機能の高度発揮 ～“災害に強い森づくり”の推進～

「造林面積」は75%、「間伐面積」は90%以上の進捗であり、今後も、再造林や間伐を促進するため、機械化や路網整備の促進、皆伐後の植栽・保育コストの低減、施業地の集約化等が求められる。「野生獣林業被害額」は、被害額が増加し目標未達となったが、皆伐を促進するためにも、新植地での野生獣害対策の強化が必要であり、効果的な被害防止対策を引き続き推進していく。

#### 重点施策3 森林・林業・木材産業を支える地域・人づくり ～“次代を担う人材”の育成～

「新規就業者数」は、高校への訪問型の就業説明会等を実施してきた効果から、目標を達成した。今後も林業の“ひと・しごと”認知度向上のための情報発信の充実が重要である。

「里山林整備面積」は80%以上の進捗であり、今後も高齢化に伴う担い手不足等に対応するため、地域の里山活動団体の中心となる新たな担い手の育成・マッチングが必要である。

#### 共通施策 未来技術を活用した産業への進化 ～“スマート林業”の推進～

それぞれスマート林業実証を実施しているモデル地区における指標であるが、「木材生産性」は、80%以上の達成率、「労働災害発生率」は労働災害が0件であり年度目標を達成した。今後も、未来技術の導入・検証を進めつつ、効果が見込まれる技術については、順次実装していけるよう取組を進めていく必要がある。